

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

一年生を迎える会

6月5日(金)、本来であれば全校児童が集合し、新しい仲間を迎える会が開かれるところですが、現状ではそれが許されないため、児童会本部の皆さんが知恵を出し合い、ビデオ放送を流したり全クラスで作成の手作りメダルを贈ったりする中で、一年生を迎える会が開催されました。児童会副会長の清水 颯さんのお迎えの言葉に、一年生も「よろしくお願ひします。たくさん遊んでください。」と応えていました。『子供たちの世界は本当にいいものだな』などと改めて感じるひと時でした。子供たちが伸び伸びと活動できる日が一日も早くおとずれることを祈るばかりです。クイズを考えたり映像を作成したり、プレゼントのメダルを作ったり、短い取組時間の中で本当にお疲れさまでした。



学習を進めるに当たって

約三か月の休業期間があったことにより、児童への学習保障が課題となっております。限られた条件の中で、授業を組み立てていくはなかなか難しい場面も出てきますが、以下の取組により、授業時数の確保と内容の定着を図っていきます。

- ・夏季休業を短縮します。(一学期終業式を7/31に、二学期始業式を8/20に。)
- ・行事の見直し。(実施の有無の検討、取組時間・実施時間の短縮を考えています。)
- ・教科書通りではなく、教育課程(時間割り)の組み換えにより、可能な内容から効率よく実施。(水泳指導等、どうしてもできないものも出てきます。また調理実習や本格的な合唱指導等は来学期以降に送ります。このような状況の中で、有効な時間活用を考えます。)
- ・教材研究を深め、系統性を持たせた授業展開。(同じねらいの教材を関連付けて進めたり、軽重をつけて実施したりします。)

※学校再開前に全職員で不足分の洗い出しと教科ごとの具体的な改善策を出し、どの学年も落ちのないような指導計画を立てることができました。特に、上の学年に進級したり中学校に進学したりしたときに困らないよう、主要な内容については丁寧な指導を行っていきます。



手作りマスクが届きました

メールでお知らせした通り、給食センターの皆さんが休業中に「子供たちが安全に学校生活を送れますように」と、心をこめてマスクを作ってくださいました。家庭数分ありますので、先日配布いたしました。地域の店舗、調理員さん、市役所の職員の皆さんが材料等を寄付してくださったようです。消毒殺菌もされていますので、安心してお使いください。

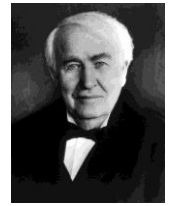


何%を求めますか？ そしてどんな言葉がけをしていますか？

「ピグマリオン効果」という言葉を聞いたことがありますか。「ピグマリオン効果」とは、心理的行動の一つで、周囲の期待によって学習者の成績が向上することであるとされています。子供に対して期待をもち、その子の長所を伸ばそうという温かい態度で接していれば、子供も自分にあっただ望ましい方向に伸びていく可能性がある、ということです。



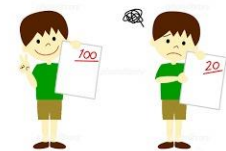
では、こんな言葉を聞いたことはありませんか。「天才とは1%のひらめき（才能）と、99%の汗（努力）である。」、これはエジソンの有名な言葉です。さらにエジソンは成功の秘訣について「1%のインスピレーションと、99%の努力である」とも話しています。エジソンといえば誰もが認める発明家です。蓄音機や白熱電球の実用化で有名になった企業家でもあります。そこには数え切れないほどの苦難と努力とがあったことでしょう。よくエジソンの美談、名言として出されているこれらの言葉は『努力こそ、成功の秘訣である』ということに解釈され、子供たちにも道徳的に話されることが多く見られます。



しかし、この言葉には別の解釈もあるようです。それは『努力の重要性よりも、インスピレーションの大切さを言いたかった』あるいは『1%の才能がなければ、努力をしても天才にはなれない』という捉え方です。世界の喜劇王チャップリンの「99%までは努力、1%が才能。この1%がよければうまくいく」という同様な言葉もあります。でもこの捉え方は、なんだか寂しいような気もしますね。

ところで自分のお子さんに何%を求めますか？天才を望むのなら100%ですが、そうでなければ…。はじめに書いたように、期待することはもちろん大切なことですが、過度になると危険もありますね。重圧に負け、心が折れてしまうなんてことも…。

さて子供がテストで90点を取って、にこにこしながら見せにきたとします。「90点も取れたの、よく頑張ったね。」と最初に声をかけるでしょうか。「10点、何を間違えたの？」とまず問うことから始めるでしょうか。このことが繰り返されたとき、子供たち



はどちらの声かけの方が前を向いていけるのでしょうか…。言葉がけというものは人によって千差万別であり、マニュアルはありません。問題はその言葉がけの中に、いかに期待する心がこもっているかどうかということではないでしょうか。心をこめ、相手に対する期待感をもって、物事に当たれるようにしたいものです。日々、子供たちの気持ちを引き出せる言葉がけができるよう、努力していかなければならないですね。これからも一緒に子育てを考えていきましょう。

切り取り線

【ご意見がありましたら校長までお願いします】